

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 空き家再活用による貧困家庭への住居・仕事・生活・食事支援事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人 社会変革推進財団
- 実行団体 : 特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
寄付食材の収集・配送ハードインフラの構築	インフラの有無	寄付食材の収集・配送ハードインフラが構築されている状態	2024年2月	【① コミュニティフリッジ】 ・2022年5月、空き店舗を利用した食材の受け渡し場所（コミュニティフリッジ）を開設した。2022年8月末時点で、約120世帯がコミュニティフリッジを利用している。	① 2
				【② 物流倉庫兼住居】 ・山間部空き家について、物流倉庫兼住居（以下、シェアハウス兼フードパントリーと呼ぶ）として活用するべく、物流倉庫の入居者を募集しているが、条件に合う入居者が見つからない。	② 3

<p>寄付食材の配送の仕組みを構築（ソフト面）</p>	<p>仕組みの有無</p>	<p>寄付食材の配送の仕組みが構築されている状態（ソフト面）</p>	<p>2024年2月</p>	<p>【寄付食材の配送】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付食材については、フードバンクさがより週2回提供を受けている。 ・2022年10月以降、佐賀市内の郵便局と連携して実施しているフードドライブ（郵便局内に寄付食材提供用のボックスを設置）からの寄付の受入れを開始予定。 ・フードバンクさが、フードドライブ以外からの寄付受入れについては、単発で発生することから、コミュニティフリッジの運営者が業務の空き時間を使って寄付食材の回収を行っており、負担が大きくなっていることが課題。人員の増強には運営費の増額が伴うことから、持続可能な運営方法を今後検討していく。 <p>【寄付食材の管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県でコミュニティフリッジを運営している北永瀬エリアマネジメントより、コミュニティフリッジの運営システムの提供を受け、寄付食材の管理（数量・賞味期限など）の基本的な仕組みは構築済み。 ・また、フードバンクさがより、食材の安全な管理（温度管理など）のために必要な対応についてノウハウ移転を受け、コミュニティフリッジでの食品の管理を行っている。 	<p>2</p>
-----------------------------	---------------	------------------------------------	----------------	--	----------

自立可能な財政基盤の確立戦略の策定	戦略の有無	戦略が策定されている	2024年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・自立可能な財政基盤の確立戦略について、他のNPOの事例を参考としつつ検討を開始しているが、助成期間終了後の安定的な収入源の獲得にはまだ至っていない。 ・寄付金を安定的に得るための一手段として、ふるさと納税の寄付金の使い道をより具体的にプロジェクト化し、寄付を募る仕組みであるガバメントクラウドファンディング®(GCF®)を昨年度に続いて実施予定(2022年10月～2023年2月)。GCFを次年度以降の安定的な寄付獲得の一つの基盤とするため、今年度は寄付募集サイトの掲載内容の大幅な見直しを実施した。集めた寄付金は、コミュニティフリッジの運営費の増額に充てる予定。 	3
-------------------	-------	------------	---------	--	---

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
各種ミーティングを、可能な限りオンラインで実施している。

③ 広報 (※任意)

1. メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

(ア) 佐賀テレビ「時間や人目を気にせず無償で持ち帰り可能なまちの冷蔵庫 「コミュニティフリッジ」九州で初開設【佐賀県】」2022年5月14日

<https://www.sagatv.co.jp/news/archives/2022051409561>

(イ) 佐賀新聞「九州初、「公共冷蔵庫」佐賀市に開設 食料品など24時間提供 ひとり親家庭など支援」2022年5月15日

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/854270>

(ウ) 毎日新聞「「公共の冷蔵庫」継続支援を訴え 佐賀コミュニティフリッジ開設3カ月 提供品不足深刻 /佐賀」2022年8月18日

(エ) 読売新聞「棚がらん 公共冷蔵庫 ひとり親世帯向け支援」2022年8月21日

<https://www.yomiuri.co.jp/local/saga/news/20220820-OYTNT50073/>

(オ) 一般財団法人社会変革推進財団 (SIIF) note

https://note.com/siif_pr/n/n2b01b6c72298

2. 広報制作物等

佐賀コミュニティフリッジホームページ：<https://saga-communityfridge.com/>

佐賀コミュニティフリッジ チラシ：<https://www.tsunasaga.jp/plaza/news/img/20220514111921540.pdf>

3. 報告書等

なし

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全体	塚原 功	特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA
内部	全体	内川 実佐子	特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA
内部	全体	杉本 創	特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA
外部	コミュニティフリッジの運営	山田 健一郎	一般社団法人 さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会
外部	コミュニティフリッジの運営	高山 哲也	一般社団法人 さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
コミュニティフリッジの利用者である児童扶養手当受給世帯の親と子供	食事支援率	一定の仕組みが動いている	2024 年 3 月	【これまでの活動をとおして把握している変化】 <ul style="list-style-type: none"> ● 2022 年 5 月にコミュニティフリッジをオープンし、現在、約 120 世帯の利用者に対して、食品・日用品を配布している。

			<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者より、コミュニティフリッジで支援を受けていることにより家計が助かっている、このような支えがあることへの感謝の声が寄せられており、プラスの変化が起きていると考えられる。 ● コミュニティフリッジは、空家・空地活用サポート SAGA がさがっこに運営を委託している。更に、佐賀県内の食支援・子供支援を行う NPO などと様々な形で連携を行っており、コミュニティフリッジのオープンを契機に 10 団体が参加する「食支援会議」を立ち上げた。食支援会議では、佐賀県内の食事支援に関する情報共有・意見交換を実施しており、コミュニティフリッジの運営改善についても継続して協議されている。また、佐賀県内で食品寄付受け入れ窓口を一元化するため、2022 年 9 月には、食支援会議の機能を強化するため、佐賀県及び県内 6 団体が参加する形で「県食でつながるネットワーク協議会（仮称）」を設立した。複数の団体が同じ提供企業と個別に寄付に関する協議をしている現状を変え、同協議会が食品受入れの窓口になり、更に食品を一時的に保管する共用倉庫も設置する予定。なお、県からは 800 万円の経費負担がある予定。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者のニーズが非常に高く、寄付物資を並べてもすぐに棚が空になる状態が続いており、せっかく取りに来ても何もないとの不満の声も聞かれる。コミュニティフリッジへのアクセスが容易で、高い頻度で利用することができる世帯に支援物資の配布が偏っていることも一因であると考えられ、寄付物資の量の確保とあわせて、より公平な運用ルール作りが必要である。
--	--	--	--

				<p>【改善状況・対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまで、コミュニティフリッジの運営を委託している一般社団法人 さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会（さがっこ）や、物資を提供しているフードバンクさが、シビックフォース、佐賀県男女共同参画センターなどの関係者と運用の改善について協議を行っており、以下の改善を図る予定。 ① 取りに来て何も無いという状況を改善するために、寄付物資の量を十分に確保できるまでの間、寄付物資搬入日を利用者に案内する。 ② 利用者登録を更新制とし、佐賀県男女共同参画センターとの面談を更新の条件とする。面談では、経済的困窮度が高く、支援のニーズが高い利用世帯か否かを確認するとともに、経済状況の改善に向けた相談にも対応する。支援のニーズが認められない世帯がある場合には、コミュニティフリッジの運営者であるさがっこに伝達し、さがっこが利用資格を停止するなどの対応を検討する。
住居付きフードパントリーの入居者	世帯年収	対象世帯の年収が一定程度上昇している	2024年3月	<p>【これまでの活動をとおして把握している変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シェアハウス兼フードパントリーが未開設のため、変化は生じていない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シェアハウス兼フードパントリーは、進捗報告に記載の通り、フードパントリー部分の法人入居者が見つからないことから、事業の財務的な安定性が見通せず、施設の改修を開始できていない状況である。 ● また、空き家の改修費用が、ウッドショックや物価高騰の影響などにより当初の想定よりも高くなっており、助成金だけでは改修費用を賄えない状況である。

				<p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シェアハウス兼フードパントリーの目的は以下の二点であり、この目的に合致する事業計画を作り直し、実行に移すことが可能か、今後関係者と慎重に協議を行う予定。 ① 経済的困難を抱え、間取り・家賃などの条件が合わず適切な住居を見つけることが困難な母子世帯に対し、安心して住める住居を提供すること。 ② 経済状況を改善するために、パートタイムなどの仕事を紹介し、将来的により高い・安定した収入を得られる仕事に就くための準備を提供すること。 ● 中間評価時点で結論を出すことは難しいが、方向性が確定し次第、必要に応じて事業計画の変更手続きについて、資金分配団体と協議する。
メーカー・生産者が従来は食品ロスとなっていた食品を、本取り組みで活用することで、食品ロスが削減されている	企業からの寄付物資の金額換算	参加企業の食品ロスが一定程度削減されている	2024年3月	<p>【これまでの活動をとおして把握している変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティフリッジで配布している食品は、主に以下の二つのリソースから供給されており、メーカー・生産者のみならず、一般家庭の食品ロスの削減にも貢献していると考えられる。 ① フードバンクさがが法人より集めた寄付物資 ② 佐賀市内の郵便局と連携したフードドライブ（家庭で不要な食品を寄付できるボックスを郵便局に設置）で集めた寄付物資

<p>自律的に仕組みが回るだけの寄付・事業収益が獲得できている</p>		<p>事業計画が存在している存在している 事業存続の見込みが立っている</p>	<p>2024年3月</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助成期間終了後の運営資金の目途がまだ立っていない。 <p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2021年度に、空家・空地活用サポート SAGA がガバメント・クラウドファンディング（GCF）を利用して寄付獲得を目指したが、必要金額には届かなかった。現在、2021年度のGCFの振り返りを踏まえ、2022年度のGCFでの寄付獲得に向けて準備中。 ● シェアハウス兼フードパントリーについては、事業単体で収支がバランスする事業計画が事業開始の前提であり、今後検討していく。
-------------------------------------	--	---	----------------	---



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>コミュニティフリッジは、経済的な困難を抱える子育て世代の支援策として有効か。</p>	<p>コミュニティフリッジの開設から間もないこともあり、中間評価時点では定量的な評価・アンケートの実施はできなかったが、コミュニティフリッジの利用者からは、「生活の助けになっている」、「子供が喜んでいる」、「地域に支えられている実感がある」と言ったメッセージが寄せられている。</p>	<p>一部の利用者の声ではあるものの、利用者はコミュニティフリッジが提供する支援に利用者が概ね満足していると考えられ、経済的な困難を抱える子育て世帯への支援策として、コミュニティフリッジはある程度有効であると考えられる。</p> <p>一方で、関係者からは以下のような課題の指摘もあり、今後、改善策を検討していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他のアウトリーチ型の支援と異なり、利用者とのコミュニケーションを取る機会が限られ、家庭の状況を把握し辛いこと。 ● 支援にアクセスしやすい一方、安易に支援に頼ってしまい、自立を促すことが難しくなること。 ● 寄付物資が不足しており、利用者のニーズに十分に答えられていないこと。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価時点で、本事業の大きな要素であるコミュニティフリッジが開設され、運営されていることは、短期アウトカムの達成に大きく貢献すると考えられる。シェアハウス兼フードパントリーの開設の見通しはまだ立っていないものの、事業全体としては、短期アウトカムをある程度達成できるものと考察する。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	事業に関係する他団体と連携体制を構築し（コレクティブインパクトグループ化し）、計画に基づいて事業を遂行できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティフリッジについては、さがっこ、フードバンクさが、シビックフォースなどと協働して事業を実施しているほか、前述の食支援会議に参加している 10 団体と月一度の定期的な協議を行っており、協業策、事業の改善点などについての意見交換を行うことができています。 ● シェアハウス兼フードパントリーについては、小城市、社協、就労支援を担う企業と連携し、事業化が可能か検討することができているが、当初計画通りの事業遂行は難しい可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティフリッジについては、開設準備に想定以上の時間がかかり、開設が当初予定より約半年遅れたが、その間に食支援会議が立ち上がり、食支援のノウハウの共有や連携について協議を行うことができ、結果的に団体ごとの得意分野を活かした連携体制を構築した上で開設をすることができた。 ● シェアハウス兼フードパントリーについては、行政や就労支援を担う企業との連携体制はできつつある一方、フードパントリー部分の借り手が見つからず、シェアハウス兼フードパントリーとしての収支の安定性が見通せないことから、事業設計を見直す必要があると考えられる。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	短期・長期アウトカムの指標・目標値を改善する必要性は無いのか。	<p>関係者間で協議を行い、指標・目標値を以下の通り改善することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長期アウトカムをより明確にする ● コミュニティフリッジでの受益者の変化を測定する指標をより多角的にする。 ● シェアハウス兼フードパントリーでの支援による変化を測定する指標を追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期アウトカムを当初の文言からより明確にしたことにより、事業の受益者、目標が明確になり、関係者が共通認識を持って活動を行うことができると考えられる。

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>助成終了後も支援を継続するために必要な組織基盤・財務基盤の構築に向けて、必要な活動が事業計画に適切に盛り込まれているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 助成終了後は、コミュニティフリッジの運営を誰が行うのか、運営に必要な経費を誰がどこからどのように集めるのか決まっておらず、支援の継続可能性が見通せていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでは、コミュニティフリッジの開設～開設後の着実な運営に重点的に取り組んできたが、今後は、助成終了後のコミュニティフリッジの継続的な運営を可能とするための活動に軸足を移していく。まずはコミュニティフリッジの運営経費を集めるためのガバメントクラウドファンディングに取組み、並行して、資金分配団体とも協議しながら必要な活動を特定・実行していく。 ● シェアハウス兼フードパントリーについても、仮に運営を開始した場合は長期的に運営をしていく必要があり、空家・空地活用サポート SAGA という組織の安定的な運営、居住・就労支援担当の体制強化、ファンドレイジング体制の強化が必要。今後、資金分配団体とも協議しながら、必要な活動を特定・実行していく。
-------------------------	---	--	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- コミュニティフリッジの運営を、子ども支援の経験が豊富なさがっこに委託できたことにより、開設からすぐに利用者が 120 世帯に到達しても、状況に応じて運営ルールを臨機応変に見直ししながら、運営をすることが出来ている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- 本事業は、コレクティブインパクトアプローチで、行政・関係団体と連携して事業を行う想定ではあったが、食支援会議の設立までは想定しておらず、想定以上にコレクティブインパクトグループ内での連携・協業が進んでいる。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価時点では、シェアハウス兼フードパントリーの事業計画の議論をまだ十分に行えていないことから、「事業計画を適切に改善する見込みがある」と自己評価した。</p> <p>今後、資金分配団体とも協議しながら、シェアハウス兼フードパントリーの事業計画の見直し、また、課題となっている助成終了後の支援継続のために必要な方策を検討し、事業計画を適切に改善していく。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- シェアハウス兼フードパントリーの事業計画の見直し
- 助成終了後の支援継続のために必要な検討・準備事項の整理、活動計画作り
- コミュニティフリッジの運営方法の改善

添付資料

- ・ 活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



コミュニティフリッジ開所式の様子



内部に並べられた寄付物資



利用者からのメッセージ